

No.14	踏み出し		
氏名	岸本 俊輝	理工学部	4回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
起業マインドのある大学生と不安を抱える起業家が相互に影響を及ぼし合えるリバース・メンタリング「常識に囚われない」はずのイノベーターも「起業家の常識」「テックの常識」に実は固定概念に囚われているように思えます...そこで、怖いもの知らずの学生たちが壁打ち、リフレクションの相手になります。それぞれの立場や垣根を超えた対話から、全く新しい可能性を創造することが目的です。起業に関心があったり、何かをやりたい、やってみたいと思っている人が交流して結論が出る時も出ない時もあるかも知れませんが、気付いたら世代や分野を超えた交流ができるプラットフォームになることを期待しています。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
全く新しいインターネットを使ったコミュニケーションを作るアプリnocnoc(ノックノック) 代表の近藤那央さん。米サンフランシスコで活動している, HoloAsh (ホロアッシュ) 代表の岸慶紀 さん。自分だけの3Dアバター(VTuber)を作って, 顔出しせずにアバターでライブ配信できる「バーチャルカラオケ配信アプリ」を開発している前原幸美さん。。クリエイター専用テレワークアプリ「ワッピンギルド」を開発し, 個性と空想科学のチカラで, 誰もが幸々える21世紀の未来をデザインしようと奮闘する小林武尊さん。田畑 直 さん(株式会社百森 共同代表)。川地 紗也子 さん(plunge.Inc 代表取締役)。杉山 滉平さん(立命館大学理工学学研究所博士課程2回生)をお招きしてメンタリングを実施しました。 https://note.com/tomoshiki/n/n518b71162b51			
5. 今回(今年度)の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
音声で繋がり、リアルでモエえて、想いが伝播して行く。 現代社会は、共創時代だと考えている。それぞれの強みや役割を意識して協働していくことで生まれる化学反応は例を挙げれば多岐にわたる。そして、学歴、年齢、役職、人種などを取っ払った「フラットな関係を築ける場所」において生まれるアイデアや新たな知見は、今までにない無限の可能性を秘めている。そこで、フラットな空間を作るためには、人との交流や対話ができる人が必要であるとする。誰かと話そうとして検索しても、有名人ばかりでハードルが高過ぎる。この心理的にも物理的にも高いハードルを克服し、今まで、見えにくかった人を分かりやすくゲームのように可視化することで、交流と対話するきっかけを生み出す。グローバルもどローカルのように、まるでゲーム感覚で全てがふらっと気軽に立ち寄れるような世界をつくることでこれらを実現していきます。			
6. 今回(今年度)の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
起業します。また、音声プラットフォームであるDabelの正社員として働くことが決定しました。			
7. 今回(今年度)の活動が周囲に与えた影響(社会・周囲)への貢献・還元の点で記述してください。			
起業家のメンタル面を支えるだけでなく、今後どのような方針で活動していくのかを学生が相談相手となることで互いに支え合うことができました。コロナで不安なもの同士が未来を見据えて活動していくことができました。様々な感想(https://note.com/tomoshiki)もいただいているのですが、この活動がきっかけでアプリを開発し、地元に戻元できる仕組みと人のつながりを広めることができた始まりました。(https://dabemon-go.glideapp.io/)そして、能動的に動けない理由を並び立てて、何もしない人が多いこの現状に対して課題を抽出し、出来る限り解決した場合どういう行動を人はするのかを仮説検証します。信頼や共感から生まれる爆発的な「何か」を提供し続けます。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
採用前 採用 現在 モチベーション + - 過去の経験を生かして、コロナ対応できる企画を思いついた。 音声コミュニケーションアプリの開発者と仲良くなり半年分の計画を立てれた 実行していくに毎に新たなニーズがあった。 マンネリ化しそうだったので、計画をPIVOTする 他大学の学生との連携を実施して、落ち着く 運営に大人も学生も混ぜたことで試行錯誤の日々 計画を遂行したことによる評価を各方面から得ることができた。	
3-2. グラフで書いた☆(個人がもっとも成長したと思うポイント)では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
はじめは自分がやりたいことベースで1人で行っていましたが、次第に共感してくださる方が増えてチームで活動することができました。また、学生だけでなく大人も交えてこれら進めていけたので、計画の実行力と社会的インパクトが増しました。人との関わりの尊さや一期一会を体感した1年でもありました。	
3-3. “今回(今年度)の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響(相互作用)がありましたか？	
フラットな関係性から生まれる爆発的な動きは授業では学べないことだったと思います。コロナで全く変わってしまった正課の学び方や取り組み方に対しても主体的にすることの大切さを改めて感じました。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。(該当ナンバーに○) また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例:【 1 (達成できなかった) ← 3 (どちらともいえない) → 5 (達成できた) 】	
① 目標の達成度	4
<理由> 起業家の方がフラット立ち寄ってくださる場を提供できただけでなく、それらに興味ある学生もない学生も交流する場を生み出せたので、当初掲げていた1つの目標は達成し、さらなる展開もできることになりました。	
② 計画の達成度	5
<理由> 計画した通りできました。そして、それ以上の活動もできました。	
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由> オンラインを基本としていたため、自分が交流したい人と声で出会えることができました。そこで人と対話して得た知見は自分の知識ともなり今後の活動に恐怖心を持つことなく新たなステップへと進めるための役立つものとなりました。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	
対話力	
② ①で記述した力について具体的に説明してください	
CEOやCOO、その他様々な分野の方々とお話をして、いかなる分野においても傾聴することができ満足度が高かったため、その力が身についたと感じました。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	
音声プラットフォームを活用して、日本だけでなく世界で活躍することができたので成長することができました。	